第6期
多摩区
区民会議ニュース
発行：第6期多摩区区民会議　事務局：川崎市多摩区役所企画課
TEL：044-935-3147　FAX：044-935-3391
VOL.2
平成 29 年 3 月発行

第６期多摩区区民会議審議経過報告

第３回全体会議が開催され、第6期区民会議の審議の方向性について審議しました。

２回の区民会議（全体会議）、３回のミーティングにおける、多摩区の地域課題についての検討を踏まえ、第６期多摩区区民会議では、２つの専門部会（Ａ部会、Ｂ部会）を設置し動き出しました。

平成 29 年３月 30 日（木）に開催した第３回の全体会議では、各部会の審議の進捗状況について、それぞれの部会長から報告が行われ、その後、今後の調査審議の進め方等について意見交換等を行いました。

A部会　取扱う分野：「地域の魅力向上、活性」、「地域コミュニティ」、「安全・安心」

B部会　取扱う分野：「子ども、高齢者、障害者等の暮らしやすさ」

＜第３回全体会議で出された主な意見＞

Ａ部会の分野について

○多摩区には公園がたくさんあるが、場所によっては子どもが公園で騒いでいると、近隣からうるさいと言われる。子どもがのびのび遊べる公園が必要である。

○「若い人に住んでもらえるまち」ということだが、若い人の意見を聞いているのか。

○多摩区が若い人に選ばれるためには、交通安全も重要だと思う。

Ｂ部会の分野について

○地域包括ケアシステムは、まだまだ知られていないので、まずは知ってもらうことが大事だと思う。

○地域包括ケアシステムでは、互助が大事だと言われているが、具体的にどのようなことをする必要があるのかが、わからない。

○行政でもキャッチできない支援が必要な人の対応が重要である。どのように見つけ出すか。

A部会報告

A部会では、「地域の魅力向上、活性」、「地域コミュニティ」、「安全・安心」をキーワードにして、審議テーマを検討しました。部会で出された意見は、次のようなものです。

◆具体的な提言をする必要がある

区民による主体的な取組は可能か、という観点から見てアプローチをする方策をどう出せるかがポイントだと思う。

◆若い人に住んでもらわないと、まちが活性化しない

若い人が住まないとまちは活性化しない。目的・ビジョンとして「若い人のまちにならないといけない」というのは皆同感なのではないかと思う。

◆若い人に住んでもらえるための方法を検討したらどうか

若い人に住んでもらえるような多摩区を目指すためには、多摩区の魅力が向上していかなくてはいけないし、コミュニティが充実して顔の見えるまちづくり、住民の関係づくりをする必要がある。それを実現するための方法、具体的な手法を区民会議で考えていく必要がある。

◆まちのセンスが問われる

若い人が多摩区に住まずに武蔵小杉に住む理由は、交通の利便性やまちのセンスの良さだと思う。一方で、多摩区には人の温かさがあり、住みやすいと思う。

地域の物理的な条件などどうしようもない条件と、これから改善できる条件があり、その中でどのように魅力をつくっていくかが課題だと思う。

◆今ある多摩区の魅力を活かす

多摩区には、生田緑地や二ヶ領用水等の魅力や生田緑地にある施設の魅力、地域社会の魅力がある。これらを掘り起こして、増進することで、多摩区に移り住んでもらえるのではないか。

◆子どもの育ちのためにノビノビと遊べる公園が必要

若い世代、特に子育て世代に住んでもらうためには、子どもが自由に遊べる公園の活性化が非常に大切だと思う。町内会・自治会加入率が8～9割の地域では、公園で遊んでいても苦情などが出ない。

◆登戸土地区画整理事業で新設される3か所の公園により地域の魅力アップの方策を考える

登戸土地区画整理事業で新設される3か所の公園により地域の魅力をアップする方策を考える。その検討のプロセスの中でまちづくりのコンセンサスを形成する。その結果、1つのコミュニティが出来上がったり、自分たちが暮らすまちについて考えていこうという雰囲気が周囲に醸成されるのではないか。

＜審議テーマの検討＞

■目指すべきビジョン

Ａ部会では、将来も活気のある多摩区をつくっていくために、次のようなビジョンを設定し、審議テーマを検討することになりました。

若い人に住んでもらえるまち

■考えられるテーマ

若い人に住んでもらえるまちを目指すために、次のような審議テーマを検討しました。今後はこれらを中心に審議テーマを絞り込みます。

◆魅力あふれるまちづくり

○多摩川の活用、例えば登戸の渡しを再現するようなイベントを開催するなど、話題性があるものを行い、多くの人に注目されるようにする。

○生田緑地のPR（例：川崎シティWi-Fiを利用した民家園のCM制作）を行う。

◆愛着を持ってこのまちに住む

○まちの過去、現在、将来を示すパネルを展示する。

○市政だより区版等に、まちの歴史、成り立ちを連載する。

○伝統文化等について、高度な技術の伝承ではなく気軽に参加できて楽しめる集まりを開催する。

◆良質なコミュニティの形成・ノビノビと子育てができるまち

○近隣の住民同士の良好な関係を作っていく。

○子どもが人との関わり合いを学ぶ場を作っていく。

◆安全安心なまちづくり

○交通モラル・マナーの向上策を検討していく。

◆居住性の高いまち

（登戸土地区画整理事業エリアの活用）

○地域にとって魅力的な公園とするために、町会、居住者、行政、有識者等で公園検討委員会を組織し検討する。

○まちの景観を整えるための改善案の検討、提案を行う。

B部会報告

B部会では、「地域包括ケアシステムの普及」、「高齢者の住みやすさ」、「安心して子育てできる環境」をキーワードにして、審議テーマを検討しました。部会で出された意見は、次のようなものです。

◆介護の実態を知る必要がある

世の中で互助を強化しなくてはならない背景、理由がよくわからない。抽象的にはよく言われているが、具体的にはなぜなのか、親世代が受けて来たサービスとどのように異なるのかなど、介護の実態を正確に把握できなくては、これまでやってきたことの延長になってしまうのではないだろうか。

◆今の時代に合った、みまもり合い、支え合いの形を考えるべきでは

お返しができないということで、地域に支えられることに負担を感じる人もいる。何でも一律に「地域で互助」というのは、今の時代に合わない気がする。

お礼の一言でも良いので何らかの“対価”が必要。互助活動を行っていくための“対価”に関するルールを検討するのもいいのではないだろうか。

◆声を出せない人や、助けは「必要ない」と言う人への対応

声を出せる人はどこかに支援を要請できるが、困っている人ほど声が出せないという実態がある。また、一人暮らしの高齢者で「人の助けは必要ない」と言う人もいる。自らも助けを求めないような、行政サポートから漏れている人については、何ら情報が集まらないし、集められない。こうした人についてはどうすればよいだろうか。

まずは、地域包括ケアシステムの取組実態を把握することが重要であるとの認識から、第２回部会では、地域みまもり支援センターの職員（保健師）に出席を依頼し、行政で取り組んでいること、行政だけで取り組むことが難しいこと、市民の力を借りるとできそうなことなどを聞くこととしました。

■課題の抽出

第２回部会に地域みまもり支援センター職員がオブザーバーとして参加し、その話から、次のような課題が明確になりました。

○行政では、キャッチでできない人をどうするかが課題である。
○近隣で気になる人がいたら、行政に連絡する仕組みが必要である。
○地域でも縦割りになっている。例えば、世代間交流が難しいなど。
○地域包括ケアシステムを多くの区民に知ってもらう必要がある。
○町内会・自治会に入っていない人をどうするか。町内会・自治会の加入率を上げる必要がある。
○町内会・自治会の役員の成り手がいない。成り手を増やすような環境をつくる必要がある。

＜審議テーマの検討＞

■目指すべきビジョン

課題を踏まえ、次のようなビジョンを設定しました。

地域包括ケアシステム推進のための、地域力向上（地域力アップ）

■考えられる審議テーマ

課題を踏まえて、次のような審議テーマを検討しました。今後はこれらを中心に審議テーマを絞り込みます。

◆関心を持ってもらえる場づくり

○地域の取組事例を発表する場、情報交換の場のようなものをつくり、みまもりや地域包括ケアシステムに関心を持ってもらう方法を検討する。例えば、各町内会・自治会で取り組んでいる地域包括ケアシステムの取組発表会・情報交換会など。

◆推進会議の設置

○区内５地区で構成する「全体推進会議」、また当該５地区の地区別に「地区推進会議」を設け、様々な取組の共有の場をつくる。

◆地域を横でつなぐ仕組みづくり

○今は「高齢者」「子ども」「障害者」などそれぞれの分野で会議や団体等が動いているが、これを横につないで地域に関わる方法や体制を検討する。

◆大学講座等の活用

○大学と連携して、例えば地域包括ケアシステムに関連する公開講座をひとまとめに紹介することで、より多くの区民に参加してもらえるような取組を進める。

◆みまもりを受ける側、支援する側も負担がない仕組みづくり

○みまもりの関係をつくるためにお互いに負担がなくなるようなルールのようなものを検討する。

□地域包括ケアシステムシンポジウムに参加しました

平成２９年２月１３日（月）に、多摩市民館大会議室で行われた地域包括ケアシステムシンポジウムに参加しました。シンポジウムでは、東京都健康長寿医療センター研究所部長の藤原佳典氏の基調講演と、中野島地区や、かりがね台自治会での取組事例を紹介するパネルディスカッションが行われ、たいへん多くの参加者が集まりました。

第５期区民会議提言取組状況報告

審議テーマ①「日頃の住民をつなぐ取組が減災につながる」(人・まち・わづくり部会)

大きな災害などの非常時には、地域における顔の見える関係がより重要になるとの考えから、キャッチコピー「**命を守る向こう三軒両隣**」が、「人・まち・わづくり部会」から提言されました。この提言を受け、多摩区では、「共に支え合うまちづくり　命を守る向こう三軒両隣」をコンセプトとする特別広報紙「**多摩区だより**」を発行しました。

いざというときに、助け、助けられる「**近助**」の関係の大切さと、その関係づくりのための日頃からの「**近所**」付き合いの重要性について伝えるとともに、「近助」と「近所」が地域包括ケアシステムの重要な柱の１つである「**互助**」にもつながるものとして、地域包括ケアシステムの構築に向けた多摩区での取組についても紹介しています。

審議テーマ②「多摩区の魅力を掘り起こし発信する」(多摩区の魅力いきいき部会)

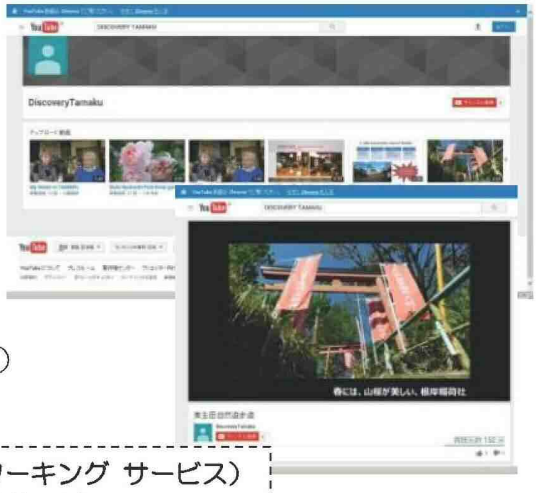
「多摩区の魅力いきいき部会」では、多摩区には多くの魅力があるのにあまり知られていない状況を踏まえ、多摩区の魅力をどう掘り起こし、わかりやすく発信していくかを考えました。

そこで、SNS（※）を活用し、区民が映像（動画）の投稿や発信を行うことのできる場所（＝プラットフォーム）をインターネット上に設置することで、多摩区の魅力を多くの区民が共有する環境を整備することが提言されました。

平成２８年度の市民提案型事業（磨けば光る多摩事業）において、ディスカバリーTAMAKU 製作委員会から、この提言と同様の趣旨の提案が行われ、事業選定されました。

委員会が作成した動画が、動画共有サイトの YouTube（ユーチューブ）に掲載されています。

「Discovery　Tamaku」（ディスカバリーTAMAKU）で検索できます。



※SNS（social　networking　service　ソーシャル ネットワーキング サービス）
インターネット上の交流を通して社会的なつながりを構築するサービス
代表的なサービスの種類として、フェイスブック(Facebook)やライン(LINE)など

＜ご意見・ご感想などをお寄せください＞

区民会議の審議内容などについて、何かご意見などがありましたら、FAXかe-mailでお寄せください。

FAX：044-935-3391/e-mail：71kikaku@city.kawasaki.jp